



大阪北ブロック 豊能支部
(株) グリーンアート 松本 直樹

コテコテの大阪とは少し違う異次元大阪、それが北摂地区である。

どこが違うのか、一言で言えば、国語の授業時間だけは標準語で教科書を読む。別にいきっているのではなく、標準語で書かれているからそのまま標準語で読む。ただそれだけの実に素直な北摂人。もちろん、たこ焼きも、吉本新喜劇も大好き。でも阪急電車内ではツバは吐かない。わきまえた文化の街。

そんな北摂、阪急宝塚線、豊中駅前人口広場に立つ銅像は、私が子どものころからの大事なネタだ。豊中駅は高架になっていて東口改札出たら、歩道橋のお化けみたいな多目的広場がある。それが人口広場である。昭和44年から続く。「えっ？知らん・・・」

「こっちきてみ、ほら、おしりまるだしやねん。」

「何？うわ？！ほんまや、はははははははは、かっこわる？」

ギリシャ神話風の立派で右手を凛々しく挙げる「平和青年像」。ただその銅像の後ろにまわってみると、想定外のお尻丸だしなのである。しかも可愛らしいお尻。そこで緊張感がふわりとほどける。二度目以降は友達と二人お尻を再確認して笑いあう。

残念ながら、今や待ち合わせという行為はない。ただその銅像だけは常に人口広場で相変わらず尻出ししながら、私たちを見守ってくれている。今でもこっそり後ろをのぞくとあのころを思い出し一人ほくそ笑む。大阪の北摂は豊中駅にあるからこそ、こんなお話が成り立つのだな。逆に私たちがお尻を見守ってきたのだ。「スタンドバイミー」が心の中がかかりだす。

